

北の志づめ

第227号

令和6年10月

奉祝 明治天皇御増祀六十年



北海道御巡幸御発輦之図〔北海道神宮所蔵〕

明治天皇御増祀六十年 特別寄稿 明治天皇御増祀の経緯 國學院大學研究開発推進機構 教授 宮本 誉士氏

明治天皇御増祀六十年 特別寄稿 明治天皇と開拓使麦酒醸造所 サッポロビール博物館 館長 栗原 史氏

開拓の群像 北海の荒波に消えた志 井上長秋 合田 一道氏

円山地域の生物 野鳥観察の事始め 円山の鳥たちの晩夏から秋は試練の連続 北海道大学大学院理学研究院 教授 高木 昌興氏

北の志づめ 第227号 令和6年10月1日発行

〒064-8505 札幌市中央区宮ヶ丘474

電話／011-611-0261 FAX／011-611-0264 北海道神宮社務所

<http://www.hokkaidojingu.or.jp/>



明治天皇御増祀六十年奉祝事業

明治天皇御増祀六十年式年祭

令和六年十月五日(土) 午後一時斎行

北海道の開拓に御心を寄せられた明治天皇を北海道の地でもお祀りすることは、北海道民の永きにわたる宿願でした。この道民の想いが、御増祀運動へと発展し、その願いは昭和三十八年六月六日、昭和天皇の上聞に達し、昭和三十九年十月五日、明治天皇を御増祀(お祀りする神様が增えること)し、社名を「北海道神宮」と改称することとなりました。この式年祭は本年が御増祀より六十年の節目にあたることから斎行するものです。

パネル展

当神宮西回廊において、明治天皇と北海道をテーマにしたパネル展を開催いたしております。北海道の開拓に御心をお寄せになりました明治天皇の御生涯や御事績、二度の北海道御巡幸についてなどをまとめたものとなっております。

【期間】七月十三日(土)～十月十四日(月)

【場所】北海道神宮西回廊



御物特別展

御物特別展では、明治天皇が実際にお使いになられた御物をはじめ、当神宮が所蔵する明治天皇に係る様々な品を展示いたしております。普段は公開していない貴重な物も多くございますので、是非ご覧ください。

【期間】

十月一日(火)～

十月十五日(火)

【場所】

北海道神宮慶陽館



明治天皇御料御茶台



『報知新聞奥羽御巡幸図絵』
函館港開拓使支庁門飾之図

明治天皇御増祀六十年 特別寄稿

明治天皇 御増祀の経緯

國學院大學研究開発推進機構
教授 宮本 誉士

昭和三十九年(一九六四)十月五日、数多の人々による明治天皇御増祀の要望が実現し、札幌神社は北海道神宮と改称した。令和六年(二〇二四)は、それから六十年を迎える年となる。

本稿の目的は、この節目の年にあたり、明治天皇と北海道開拓事業、札幌神社との関わり、そして明治天皇御増祀により札幌神社が北海道神宮と改称するまでの経緯の概要を顧みることにある。

明治天皇と

北海道開拓事業、札幌神社

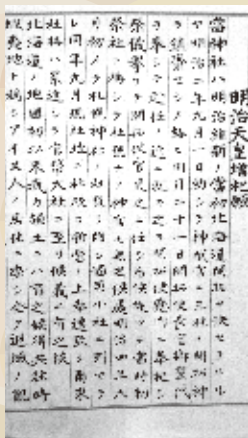
明治二年(一八六九)五月の箱館戦争終結後、明治天皇は、蝦夷地開拓を勅問し、七月には開拓使が設置された。

八月十五日には太政官布告により蝦夷地を北海道と改称し、九月一日には、北海道開拓事業の出発と神祭とが一体になった「北海道鎮座神祭」が、神祇官で斎行されている。明治天皇の勅旨による、この「北海道鎮座神祭」こそは、北海道開拓事業の出発点となり、全道の開拓の守護神として奉斎された札幌神社の創祀と位置付けられる神祭である。同神祭における神座(開拓三神Ⅱ大国魂神・大那牟遲神・少彦名神)の神籬に掛けられた御神鏡は開拓使に引き渡され、開拓三神を奉祀する札幌神社が創建されたのである。

昭和前期の明治天皇増祀運動

その後、北海道開拓事業の進展とともに、北海道開拓の守護神として発展した札幌神社は、昭和前期に至り、明治天皇増祀運動(以下、増祀運動)を展開することになる。増祀運動の中心となった札幌神社宮司高松四郎の「明治天皇増祀願」(昭和十一年十

二月二十六日付)には、北海道開拓事業と札幌神社の創建が「明治天皇ノ勅慮」に基づくものであること、それゆえに明治天皇を増祀することは、「天皇ノ勅慮ヲ追懷奉戴」し、開拓事業の進展に繋がるということが述べられている。これが、以降の増祀運動の基点となる文書である。



「明治天皇増祀願」



札幌神社宮司高松四郎

但し、当時の神社行政を掌管した内務省神社局においては、天皇奉祀神社は、「一神一社二限ル」ことを方針としており、明治天皇奉祀神社も一社に限るとされていた。これにより、高松四郎をはじめ、北海道庁長官池田清、衆議院議員木下成太郎などが尽力した札幌神社の増祀運動は実現しないまま、戦時体制による中断を余儀なくされ、戦後を迎えることになる。

戦後の明治天皇増祀運動

戦後、神社本庁包括下の宗教法人となった札幌神社の増祀運動は、昭和二十七年二月の総代会において責任役員に選出された福島利雄が逸早く動き始めたことを基点とする。



札幌神社責任役員福島利雄
〔『福島利雄追憶集』より〕

その後、昭和二十九年八月の札幌神社総代会において、「祭神増加並神宮号に御改称の件」が満場一致の賛成を得て決議され、同年十二月には、神社本庁統理鷹司信輔宛「祭神増加並神宮号に御改称の件申請」の提出に至る。

さらに、昭和三十年五月には、東京の明治記念館において、宮内庁掌典職、町村金五衆議院議員、神社本庁、明治神宮、北海道神社庁、札幌神社関係者などが出席し、「北海道神宮に御改称並に祭神増祀に関する打合協議会」が開催されている。

その後、責任役員・総代会をはじめとする札幌神社関係者による準備が各方面から進められる中で、昭和三十七年十二月以降、北海道市長会長、同町村会長、各商工会議所会頭、市町村長、道内神社宮司及び道内各有力者、札幌神社氏子崇敬者の宮内庁長官宛陳情書の取纏めが行なわれていく。

そして、昭和三十八年二月には、神社本庁を通じて宮内庁長官に陳情書を提出。同年六月六日には、明治天皇御増祀並びに社名を北海道神宮と改称の件、上聞に達したことを知らせる文書が宮内庁長官宇佐美毅から神社本庁統理佐佐木行忠宛に届くこととなる。

こうして、札幌神社関係者の尽力によって、神社本庁、宮内庁、明治神宮、北海道神社庁などの各関係機関の協力を得て、昭和三十九年九月二十五日には、御霊代御料並明治天皇御料黄櫨染御袍を拝受し、十月五日には明治天皇御増祀鎮座祭、翌十月六日には明治天皇鎮座奉幣祭（勅使掌典高倉永輝参向）が執行されることになるのである。

以上の経緯により、北海道開拓事業と札幌神社の創建が何れも「明治天皇ノ勲慮」に基づくものであることを理由とする明治天皇御増祀の要望は、数多の人々の尽力と情熱によって実現するに至る。これによ

り、昭和三十九年十月五日、札幌神社は、北海道神宮となったのである。



昭和39年10月6日、明治天皇鎮座奉幣祭

宮本 誉士（國學院大學研究開発推進機構教授）

◆昭和四十五年山形県山形市生まれ。國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期修了。博士神道学。平成二十二年國學院大學研究開発推進機構助教。同准教授を経て、令和三年四月から現職。著書は、『御歌所と国学者』『北海道神宮研究論叢（共著）』『昭和前期の神道と社会（共著）』『霧島神宮誌（共著）』『乃木神社御鎮座之記（共著）など。』

明治天皇御増祀六十年 特別寄稿

明治天皇と 開拓使麦酒醸造所

サッポロビール博物館
館長 栗原史

明治二年（一八六九）明治新政府は、アジアに進出する欧米列強に伍するため近代産業育成のため、また帝政ロシアが樺太・千島・蝦夷地を狙った南下政策をとる中、蝦夷地の防衛目的として「開拓使」を設置し、蝦夷地を北海道と改名した。

つまり「開拓使」は現在の省庁のような組織であった。

明治天皇は開拓使の安寧のため詔を発し、北海道の守護神・開拓の神をお祀りになったのが北海道神宮の創祀である。

開拓使の事業のひとつに、麦酒醸造所があった。

ビール原料の大麦・ホップを栽培する「農業」、それを用いてビールを製造する「工業」、できたビールを外国人等に販売



明治14年(1881) 明治天皇の行幸(札幌でのルート)
〈北海道大学付属図書館所蔵〉

して外貨を獲得する「商業」とバランスの取れた事業という考えからの設置であった。

問の筋あり」として兵を率いて鹿児島を出発、いわゆる西南戦争が始まった。これよりさき、天皇は一月末から京都に滞在されていたが、戦争勃発により京都に政府軍の本営がおかれ、天皇も同地に滞在されていた。

開拓使麦酒醸造所が六月に初めて東京出張所へ出荷した札幌冷製ビールの一部は、二十六日に横浜から京都に向け転送され、明治天皇と皇太后へ献上されたのである。

また、翌明治十一年七月にも黒田長官から徳大寺宮内卿宛に「供天覧度候」としてビール二箱を献上している。

明治天皇は、明治九年に北海道に最初の御巡幸を行っておられるが、この時は函館周辺、七重官園等の視察のみの御巡幸であったため、再度の御巡幸を願う声があがり、開拓使十年計画の終了を翌年に控えた明治十四年、

明治天皇の北海道御巡幸が行われた。

開拓使麦酒醸造所の御視察は八月三十一日であった。どのような御視察であったかは弊社「サッポロビール百二十年史」に記載されているので、ここに紹介する。

天皇と三百人余にも及ぶ供奉者の一行は、開拓使、工業課、紡績所を御巡覧のち、午前十一時三十五分に麦酒醸造所に御到着された。



開拓使麦酒醸造所 開業式
〈北海道大学付属図書館 所蔵〉

事務所では黒田長官が随行し、醸造所の各現場では佐藤秀顕がお供をしてご説明申し上げた。まず、二階の貯麦所、冷酒所、煎麦所、ついで一階の製酒所、びん詰所、醸酒所、酒蔵、製麦所を御通覧のあと休憩された。

このとき陛下に差し上げたビールがことのほかお気に召された御様子で、重ねて所望されたため、醸造所の関係者は非常な感激を味わった。

なお、このとき天皇が使用された御椅子は、現在、サッポロビール博物館内貴賓室に保存されている。

その夜、醸造所からご宿舎の豊平館にビールダーズをお届けした。また天皇からは、酒饌料として、麦酒醸造所の作業員十六人に対し、金二円四十銭が下賜された。

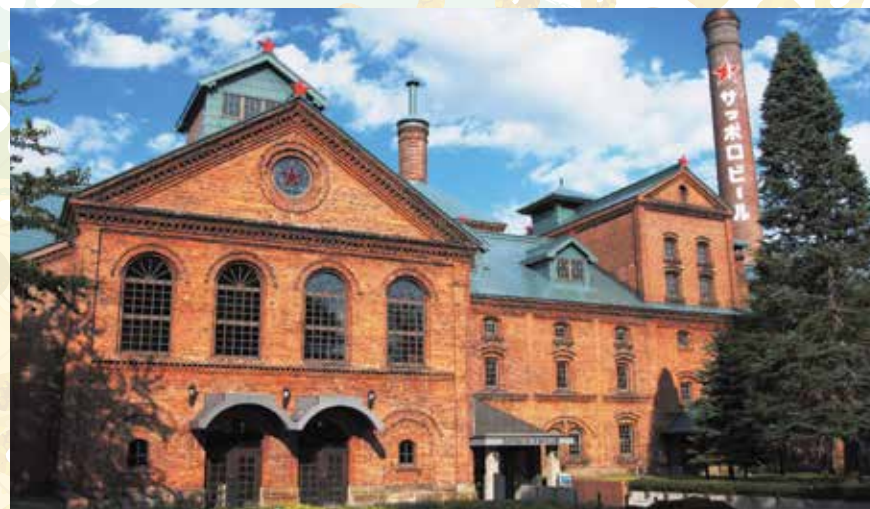
明治天皇のお誕生日である十一月三日にこれを奉祝する「明治祭」においては往時をしのび、開拓使麦酒醸造所跡地



明治天皇がお座りになられた御椅子

にて製造されている「開拓使麦酒」を神饌として大前にお供えしている。

御増祀六十年の本年、明治天皇の大御心によりいわば親戚関係ともいえる北海道神宮と弊社との関係を尊び奉祝の思いを強めてまいります。



サッポロビール博物館 外観

もこの人物は、北海道にとつては忘れてはならない大事な人物なのです。

井上長秋は天保二年（一八三二）七月二五日、鹿児島藩主島津家の産土神諏訪神社の神職の家に生まれました。通称岩見。容貌魁威、気宇壮大、思慮深く、学識豊富、画をよくしたとされ、尊皇憂国の志を抱き、薩摩藩士らと結んで国事に当たりました。

幕末期に上洛した井上は、岩倉具視と会つて信任を得、時務を画策するなど国事に奔走します。慶応四年（一八六八、明治元年）、新政府に召し出されて制度事務局権判事に着任。この時、鹿児島藩から採用されたのは西郷隆盛、大久保利通、小松清廉、吉井友実、五代友厚ら、後に明治政府の要職に就く人々でした。

明治二年（一八六九）二月、清水谷公考が岡本監輔の蝦夷地鎮撫の建議を

容れると、井上は岡本と会い、これからは北地の経営に意を注ぐべきとして「蝦夷地開拓建言書」を提出します。

四月、箱館裁判所が設置されると、井上は同所在勤を命じられて箱館へ移り、ほどなく徴士参与内国事務局判事になります。この時、三八歳。だが新政府の経営はまだ第一歩を踏み出したばかりで、困難を極めていました。

井上は汽船箱館丸を購入する一方、資金調達のため江戸へ赴き、イギリス公使から借り入れた二万ドルのうち、半分を費やして石炭を掘り、それを売却して経費を生み出そうとしました。

ドイツ人ガルトネルを箱館府雇として、七重に二万坪の農地を開いて洋式農業を試みたのも、井上の考えからだつたといわれています。これは後に政府とガルトネルの間に紛争を呼び、政府は多額の賠償金を出す結果となるのです。

特集

だげね／北海道

開拓の群像特集

合田 一道

歴史から見えるもの⑥⑧

北海の荒波に消えた志 いのうえよしだけ 井上長秋



井上長秋〔市立函館博物館所蔵〕

開拓神社の祭神三七柱の中で、あまり知られていないのが、井上長秋ではないかと思えます。なぜでしょう。実は井上長秋は、別に石見という通称もあり、同一人物ではないと判断する人が多いのも、その理由の一つかと思われます。で



井上長秋が出帆した釧路港

井上は苦心の北海道経営を続ける中、八月八日、汽船箱館丸に乗って根室へ赴きますが、その帰路、思わず災難が待ち受けていました。釧路に立ち寄り、一九日に抜錨して間もなく、折から起こった台風に叩かれて箱館丸は行方不明になってしまいます。

大騒ぎになり、捜索船を出すなどして探しましたが、箱館丸はついに見つからず、海の藻屑となり消えてしまったと判断されました。この訃報に新政府はうち震えました。朝廷は急ぎ遺族に金八百両を、長女に終身年金三百円を与えました。

北海道の開拓が始まる寸前に、突如起こったこの官船遭難事故は、新政府を狼狽させました。どこの所有とも知れない蝦夷地

と呼ばれたこの地を、天皇の名においてわが国有地として動きだした直後の惨事だけに、前途に暗雲が立ち込める思いだったに違いありません。

あれからすでに一世紀半。未開の北海道で起こった大惨事も、いつしか歴史の闇に埋められてしまった…、でも忘れてはならない尊い歴史の二頁なのです。



井上長秋贈正五位奉告祭の献詠短冊。
左より、阿久根成磨、樋渡清康、中村平輔。

◆プロフィール◆
昭和九年（一九三四）、空知郡上砂川町生まれ。北海道新聞に入社し、道内各地を回る。在職中からノンフィクション作品を発表。『定山坊行方不明の謎』で北海道ノンフィクション大賞を受賞。退職後は札幌大学文化学部講師。著書は『日本史の現場検証』『人間登場―北の歴史を彩る』『大君の刀』など。

『円山地域の生物』

野鳥観察の事始め

円山の鳥たちの 晩夏から秋は試練の連続

北海道大学大学院理学研究院
教授 高木 昌興

円山の森で子育てを終えた鳥たちは南への旅に出発していきました。円山の冬は寒さと雪で、餌を探すのが難しくなるからです。冬の円山にも鳥たちは生活しているのではないかと考えられます。確かにこれまでに紹介した留鳥は冬の札幌に生活していますし、冬鳥はあえて冬の円山にやってきます。その様な鳥たちは草木の種子やドングリ、果実、冬芽を食べて冬を凌ぐことができる鳥たちです。夏鳥として札幌にきた鳥たちは主に昆虫を餌に生活するので、円山で冬食べられる餌で冬を乗り越えることができないのが大きな要因です。

それでは円山の森で華麗な歌声を披露

し美しい姿で私たちを楽しませてくれたキビタキやセンダイムシクイはどこまで渡っていくのでしょうか。全長十三cm体重十一gのキビタキはルソン島やミンダナオ島、カリマントラン島北部まで渡って行きます。円山からの距離は直線で四kmにもなります。全長十三cm体重九gのセンダイムシクイはマレー半島やジャワ島にまで渡って行きます。日本からの直線距離は六kmを超えます。俄には信じられない旅を小さな体で成し遂げています。そこまで行かなくても良いのではないかと思います。昆虫の多い東南アジアまで移動して冬を越し、たくさん昆虫が採れる春から夏の円山で子育てをすることがより多く子供を残すことに有利だからこそ、長旅をし続けると考えられます。一方でこのような鳥の移動は数十、数百万年昔の地球規模で起こる寒冷化する氷期と暖かくなる間氷期から連綿として引き継がれてきたものと考えられます。鳥たちは長い進化の過程で獲得した行動を変化させることは難しく、それに縛られると

いう現実もあります。

小鳥の繁殖について振り返ってみます。

円山のキビタキとセンダイムシクイは幅がありますが一回の繁殖でメスは三〜七個の卵を産みます。メスは十日間ほど卵を温め、卵を孵化させます。その間、メスが巣を留守にするのは排泄と食事のための最低限の時間です。長時間巣を留守にすると卵が冷え、温め直すのにメスは余計なエネルギーを消費します。発生途中の卵を長く冷やすと発生が止まり孵化しません。メスは非常に大きな負担を払って繁殖をしています。オスはどうかというと、巣で卵を温めるメスに餌を運び、卵を狙う捕食者が近づくとき警戒声を発して追払います。自分を危険に晒すこともあります。孵化後は親たちに新たな試練が待ち受けています。ヒナへの餌運びです。お腹を空かせたヒナたちは大きな口を開け大きな声で鳴いて餌乞いをします。多くのヒナがいると親は餌を運んでも、運んでもヒナはすぐにお腹を空かせます。親には休む暇がありません。ヒナの大きな薄赤い口の中の色と鳴き声は親の本能を

呼び覚まし、次から次へと餌を運ばせることに機能します。厳しい時期を終えると七月になつていきます。繁殖は鳥の一年の生活で最も厳しい活動の一つです。

過酷な繁殖の日々を過ごした後、息を吐く間もなく次の試練が始まります。東南アジアへの渡りです。実はその前にも一つ大きな試練が待っています。親鳥たちはヒナのために木々の葉の飛び回ったことと、巢の出入りで羽が擦れ、また強い日差しを浴び、紫外線は羽を劣化させてきました。傷んだ羽では長旅に支障をきたします。鳥たちは衣替え(換羽)をします。羽を生やすのに多くの栄養が必要になり、これも大きな負担になります。さらに長旅に備えてエネルギー補給をしなければなりません。脂肪を蓄えることになります。そして長い旅に出発します。美しく華麗に歌う鳥たちですが、小さな体からは想像できないほどのコストを払いながら生活しているのです。このようなことを考えながら小鳥たちを見ると一層愛おしくなります。なお円山公園ではお馴染みのオシドリとマガモも衣替え

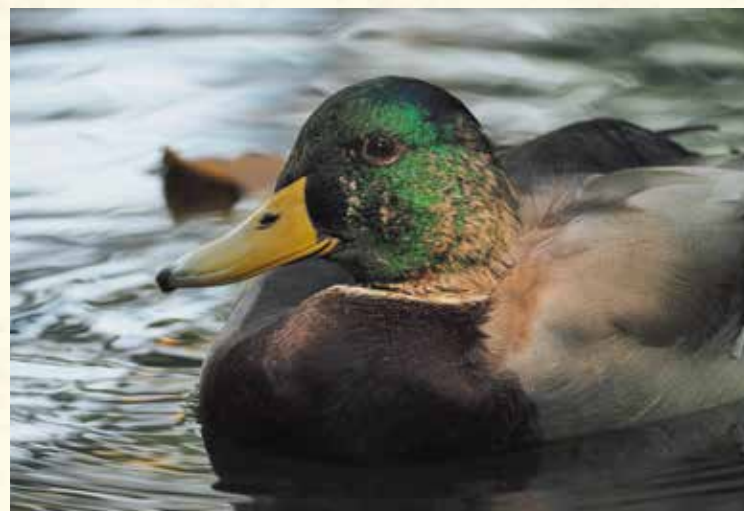
です。

円山は極東ロシアで繁殖を終え、換羽という試練をくぐり抜けてきた鳥たちのオアシスにもなっています。円山で繁殖しているキビタキ、センダイムシクイやコサメビタキに似ている鳥たちが通過していきます。キビタキに似ているムギマキはオレンジ色が鮮やか、カラフトムシクイは小さいセンダイ



あの美しさの見る影もない衣替え中のオスのオシドリ

ムシクイよりもさらに小型で翼に二本の黄色い線が目立つ可愛らしい小鳥、コサメビタキを少し大きくしたサメビタキやエゾビタキも常連です。これら鳥はバードウォッチングを趣味にしている人たちを魅了する鳥でもあります。珍しい鳥を札幌の都心からすぐの円山で観察し、お得感を味わってみてはいかがでしょうか。



緑色一色の頭に茶色の羽が混ざっているオスのマガモ

社頭風景

六月／八月

例祭

本年の例祭は本年番第十八円山祭典区、山車年番第二十二琴似祭典区の奉仕により斎行されました。

六月十四日(金)午後三時の頓宮修祓祭にはじまり、午後五時には万灯のお囃子の先導により第二鳥居から年番役員が参進し、午後六時から宵宮祭を斎行、十五日(土)午前十時から

らは約二〇〇名の参列の

と例祭を斎行いたしました。十四、十五の両日は神門内並びに土俵舞台などでは様々な催しが奉納され、十六日(日)は勇壮な調べを奏でる勤王隊を先頭に、時代装束に身を包んだ奉仕員により、九基の山車と共に新緑の札幌の街に出御となりました。渡御行列は約十五キロに渡って練り歩き、雨に降られる場面もありましたが、そのような中でも沿道には多くの方が集まり、鳳輦に手を合わされておりました。



宵宮祭



例祭



神輿渡御



奉納舞台(土俵舞台)



奉納舞台(神前舞台)



後日祭

天皇皇后両陛下 英吉利国御渡航 行幸啓安泰祈願祭並びに 御渡航還幸啓奉告祭

天皇皇后両陛下にはイギリスを御訪問にられました。

それにあわせ全国の神社にて行幸啓安泰祈願祭並びに還幸啓奉告祭が斎行されました。

当宮では六月十九日(水)午前九時半に御渡航行幸啓安泰祈願祭を、七月一日(月)午後二時半に御渡航還幸啓奉告祭を執り行いました。

裏千家献茶式

裏千家献茶式が六月二十一日(金)午前十時より茶道裏千家今日庵坐忘斎千宗室家元のお手前により執り行われました。式では千宗室家元が濃茶と薄茶を謹点し、御神前にお供えされました。献茶式には道内各地より、裏千家淡交会の会員約三百名が参列し、

第五十四回夏季ラジオ体操会

七月二十六日(金)より八月二十五日(日)まで、園児・小学生・中学生を対象としたラジオ体操会を開催しました。期間中延べ二、二六三名の子供たちが参加しました。



ラジオ体操をする子供たち

第十三回七夕まつり

七月二十七日(土)～八月七日(水)の間、神門前並びに廻廊に七夕飾りを設置しました。笹は高校生以下の子供たちの短冊で彩られていました。



短冊で彩られた笹飾り

家元の所作を見守っていました。

献茶式に際して、直心亭に札幌第四支部(長沼修支部長)担当の薄茶席、参集殿に小樽支部(西條文雪支部長)担当の立礼席が設けられました。



千宗室家元

日台友好桜里帰り 文化交流会による 昭和天皇ゆかりの桜植樹

六月二十五日、一般財団法人日台友好桜里帰り文化交流会により、昭和天皇ゆかりの桜が植樹されました。

この植樹事業は、大正十二年に当時摂政宮・皇太子であった昭和天皇が台湾の



清祓



植樹された寒緋桜

地に行啓された際、記念に植えられた桜の樹を日台親善のため日本に里帰りをさせたいという台湾の人々の想いから企画されました。

当神宮におきましては、昭和天皇には皇太子時代を含め四度のご参拝を賜り、水松をお手植えされております。そのような御縁から、この度植樹を受けることとなりました。

当日は午前十一時より台湾を代表し台北駐日経済文化代表処(大使館に相当)代表の謝長廷氏や台北駐日経済文化代表処札幌分処処長の粘信士氏が参列するなか、奉告祭を斎行した後、手水舎奥の植樹地にて寒緋桜の苗木を植樹されました。

北海道神宮頓宮

頓宮の夏

六月の夏越の大祓を終え、頓宮の境内も夏を迎えましたが、七月の小学校の夏休みに併せては、境内ではラジオ体操が行われ、八月には盆踊り等の行事が開催されました。

昨年、発足致しました神輿会頓宮も秋の頓宮例祭神輿渡御に向けて5月から練習会を行っておりますが、本年は明



神輿会頓宮一般体験会



下町マルシェ

治天皇御増祀六十一年の年でありますので、頓宮神輿の渡御は明治天皇の縁の地でもあります、サッポロファクトリー(旧開拓使麦酒醸造所)煙突広場に入り、そして二条市場を通り、頓宮に戻る順路を予定しています。八月四日には、一日講社主催の下町マルシェが境内で行われ、併せて神輿会頓宮の一般の方に向けての体験会、八月二十四日、九月七日と神輿会頓宮の練習会が境内で行われ、頓宮境内は静寂と賑わいが繰り返される熱い夏でした。

開拓神社

八月十四日(水)午後六時、開拓神社宵宮祭が斎行されました。それに先立ち、午後三時、開拓神社にお納め頂いた皆様の願いが書かれた木札をお焚き上げすることで御祭神へとお届けする、「開拓神社祈願札焼納祭」が執り行われました。積み上げられた木札は祓い清められ、神前にて祝詞を奏上の後、斎主が忌火から松明に火を移し、四方より火をつけ焼納されました。



例祭



子供神輿

十五日(木)午前九時、例祭並びに発輿祭が斎行され、併せて御神輿に御霊を移す御霊代奉遷の儀が執り行われ中神輿一基、こども神輿四基それぞれに御神霊が遷されました。引き続き、開拓神社大神輿保存会道神會、市民団体とつしよ北開道を中心にした有志の神輿会による中神輿、また少年野球チーム、ボーイスカウト、宮の森盆踊り同好会の児童達約三百名によるこども神輿の渡御が行われました。渡御行列は福井ばやし、北響太鼓の勇壮な響きと共に、法被姿の子供たちは猛暑の中、ワッショイワッショイの元気な掛け声をあげて円山地区を渡御しました。

開拓神社例祭に併せ、十四日(水)から十六日(金)の三日間、宮の森盆踊り同好会主催の盆踊り大会が北一条駐車場に



盆踊り

で開催されました。本年から協賛者の名前の入った提灯が櫓を飾り、盆踊りを明るく照らしていました。

また、四月二十一日(日)より総勢二十チームが参加し行われた第三十七回開拓神社杯軟式少年野球大会は、七月二十六日(金)に太陽グループ少年野球場にて決勝戦が行われ、八月十五日(木)午前七時半より表彰式が北海道神宮本殿にて行われ、優勝した東雲ファイターズを始め入賞チームが表彰を受けました。

奉賛会だより

〈北海道神宮奉賛会〉

◆新入会員・協賛者のご紹介

当会へのご入会・ご協賛を頂きまして、まことに有り難うございます。令和六年五月一日から八月末日までのご入会の方、また会費以外にご協賛頂きました方のご芳名をご報告致します。お名前漏れ等がございましたら、お手数ですが事務局までご連絡下さい。

新入会員のご紹介

小川 政徳
渡部 康人
北海道相互建設㈱
西村 次郎
村上 晋也
山崎 郁子
野村 亮太
稲田 まみ
原田 貴史
花輪 晃彦
㈱キッズプロモーション
田中 清一
中野 学
鈴木 健司
ななまき共同作業所
安田 雅人
謝 焯廣
鳴原 博昭
藤江 篤志
森 剛
中川 時人
金野 義則
伍 俊銘
雅高ジャパン㈱
大矢 卓司
永守 大輔
喜多村 Shanthi 敦子

協賛者のご紹介

◆二十万円
フォービスアローズ㈱ 代表取締役 郷六尚
◆三万円
下野 高
◆二万円
岩田地崎建設㈱
長谷川 好道
◆一万円
北海道神社庁 庁長 菅原 高穂
伊藤組土建㈱ 代表取締役社長 大谷 正則
㈱ウヤマ 代表取締役 宇山 照江
㈱大室洗染所
中峰建設㈱
白馬堂印刷㈱ 代表取締役会長 花井 馨
後藤 眞智子
北陽ビルサービス㈱ 代表取締役 其田 雅人
㈱グランビスタホテル&リゾート
札幌パークホテル
富原 亮
炭火焼鳥 大相川 優則
North management 企画 代表 齊藤 孝憲
北海道神社庁神社総代会 副会長 平井 勇光

◆五千元
長谷川 繁
㈱米山商店
須戸 正幸
内田 大介
伊藤 八枝子
百瀬 幸恵
◆三千元他
塩田 義昭
㈱ココウエスト 代表取締役 大西 仁詩
佐藤 明代
㈱ケーワークス 小林 正則
勝木 忠男
佐藤 大祐
宮地 宏
三部 信雄
大坂 輝子
浜本 茂
牧 康浩

第三十七回「境内清掃奉仕」のご案内

昭和六十三年から始まり、本年度で第三十七回目を迎える恒例の北海道神宮奉賛会の境内清掃奉仕を行います。お誘い合わせのうえ本年も多数のご参加を心よりお待ちしております。

【日 時】十月二十七日(日)

【集合時間】午前九時四十五分

【集合場所】北海道神宮 参集殿

【日 程】午前十時より正午まで

【申込〆切】十月十九日(土)

※申し込みが五〇名となり次第締切らせて頂きます。

【受 付】毎日午前九時から午後四時まで

【連絡先】奉賛会事務局

電 話 六〇一〇二六

FAX 六〇一〇二六四

※寒さが予想されますので防寒着でお越しください。
※雨天の場合は中止となります。
※住所、電話番号、会員名を明記し事務局宛にFAX
くださいますようお願い申し上げます。



境内の清掃風景